

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

万葉の里地域づくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

富山県、高岡市、氷見市

3 地域再生計画の区域

高岡市及び氷見市の全域

4 地域再生計画の目標

本計画の区域は、奈良時代「万葉集」の編者として知られる大伴家持が越中国守として滞在した国府跡を中心に広がる2市1町から構成され、古くから政治と文化の中心地として、地域の結びつきは強い。中でも高岡市、福岡町は平成17年11月1日に市町村合併を行い、より地域の一体感は高まっている。

本地域は、古くは万葉集ゆかりの地として、また江戸時代には加賀藩2代藩主・前田利長の開町以来、加賀藩の領地として加賀文化の影響を強く受け、銅器や漆器など伝統工芸が盛んなほか、海運力を生かした商人の街として文化性の高い地域として知られている。

加えて、加賀藩2代藩主・前田利長の菩提寺として3代藩主・利常が20年の歳月をかけて建立し現在は国宝に指定されている「瑞龍寺」を始め、「高岡城跡」（現高岡古城公園）、高岡銅器のシンボリック存在で奈良・鎌倉に続く日本3大大仏のひとつである「高岡大仏」、源義経が雨宿りをしたとの伝説がある義経岩から富山湾を隔てて海の向こうにそそり立つ壮大な三千メートル級の立山連峰を望むことのできる「雨晴海岸」など、歴史に彩られた名所・旧跡が数多く残されている。

本地域は能登半島の玄関口として富山湾の良質な海産物を産出しており、とりわけ脂ののった氷見ブリは高級ブランドとして全国的に有名である。海岸付近は能登半島国定公園にも指定されているほか、良質で湯量の多い温泉が湧出することから「きとぎとの魚」と「温泉」、「美しい海岸の景色」、「歴史と伝統文化」を求めて多くの観光客が訪れている。

また、県内第2の都市である高岡市と中核都市である氷見市を有する本地域は、商業を始め有数の港である伏木港を生かした化学、製紙、アルミなどの工業、海運業、伝統産業、水産業などが盛んである。

さらに林業においては、緩やかな丘陵地に囲まれ、比較的積雪量の少ない地域であることから県内有数の林業地域として林業生産活動が行われており、かつて、電柱材生産を主目的とした他に例を見ない高効率な「ボカスギ林業」として一世を風靡した地域でもある。現在は需要の変化と材価の低迷により大規模な伐採・搬出が行われな

くなったものの、間伐を中心に森林の整備が行われており、林業における潜在力の高い地域として期待されている。

本地域の課題として、第一に県内第2の都市である高岡に多くの人口や産業が集中しており、戦災を免れ古い都市環境が依然残されたままであることから、慢性的な渋滞と通行車・歩行者相互の安全面の問題が挙げられる。このことは、地域住民の生活や産業の発展に支障をきたしているばかりでなく、県内外の観光客の誘致にブレーキを掛ける要因にもなっている。

第二に、平野部を取り巻く丘陵地帯に点在する集落では、都市部との生活環境の格差等により過疎化・高齢化が進んでおり、担い手不足から山林の荒廃が懸念されている。このことは、水産業にも影を落としており、氷見ブリを中心として豊富な海産物に恵まれた本地域ではあるが、手入れの行き届かない不健全で脆弱な森林が、台風や豪雨によって崩壊、流出したと考えられる大量の流木漂着や漁獲高の減少等が問題となり、漁協青年団による森林整備ボランティアなどの活動も模索されている。

本地域においては、これまでも『富山県西部地方拠点都市地域基本計画（平成6年3月策定、平成16年3月変更）』に基づき、諸施策を展開しているが交通環境の遅れが地域の発展を妨げる一因となっている。

こうした中、本地域再生計画により「市道」、「林道」による路網を整備することによって、都市部と山村部の交通環境を改善することが、本地域において重要な役割を果たすと考えられる。

一つには、交通網の整備により、地域住民ばかりでなく県内外の観光客が、安全で快適に訪問し、高岡万葉まつりを始めとするイベントや史跡を通じて万葉の歴史と加賀前田家の菩提寺門前として栄えた小古都の風情に浸り、日本一の魚と海と温泉を満喫することを可能とするなど、本地域の観光振興や産業活性化が図られる。

また、過疎化・高齢化の進行により林業の担い手不足による未整備森林の増加が懸念されている山村部においては、林道を中心とした本計画により整備される路網により、森林へのアプローチの手段の確保と間伐等の森林整備の推進、伐り出された木材の山元製材工場や市場への送り出しの効率化等により、林業、木材産業の振興と美しい里山の景観の維持、創造が図られる。さらに、現在も活動している「氷見・森とまち、海をつなぐ」交流事業への住民参加と意識高揚を促すことも期待され、手入れの行き届いた山林は、魚介類豊富な海として水産業の振興と観光の発展にも寄与されると考える。

以上のことから、地域の重要なインフラである道路と林道を効率的に整備することによって、1次産業の活性化が図られ、地域住民が暮らしやすく、また、地域外からも多くのヒト・モノの交流のある歴史と文化と景観に彩られた「万葉の里」にふさわしい地域づくりを行うこととする。

（目標1）主要観光地へのアクセスの向上

（市道「戸出光明寺戸出吉住新線・上関町13号線・井口本江18号線」の

整備による、国宝「瑞龍寺」への大型観光バスによるアクセスの向上、移動時間6分間の縮減)

(目標2) 林業の振興と地域環境の改善

(林道「惣領鞍骨矢田部線」の整備による間伐実施面積の11%の増加)

(目標3) 維持管理や災害の軽減

(林道「加茂線・小野八谷線」の整備による、維持管理費の20%の縮減)

(目標4) 海・山の交流ボランティアの増加

(「氷見・森とまち、海をつなぐ」交流事業による、ボランティア人口の5%の増加)

(目標5) 観光客の増加

(市道の整備とイベントの連携による観光客の増加、16万5千人→16万8千人)

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

地域の中核をなす市の主要な市道4路線と中山間地域における林道7路線を整備することによってヒト・モノの流れの効率化を図る。

市街地部においては、市街地と郊外を結ぶ交通の隘路となっている幹線道路である市道「戸出光明寺戸出吉住新線」、市道「上関町13号線」において踏切道拡幅改良を行い、市道「井口本江18号線」において拡幅改良を行うことにより、中心市街地へのアクセス性能の向上と安全の確保が図られ、円滑な自動車交通の確保および安全で人にやさしい歩行空間が創出される。

また、市道「戸出石代川原線」が整備されることにより、高岡オフィスパーク(富山県西部地方拠点都市地域)へ向かう大型トラックのアクセスが向上し、地域の物流の活性化が図られる。

山村部においては、林道「惣領鞍骨矢田部線」、林道「氷北線」、林道「能越2号線」、林道「桑院赤毛線」を開設することにより、既存の市道、林道と連携して森林へのアプローチの手段が確保され、森林の整備が進むほか、健全な森林の育成により豊かな水産資源の確保が図られる。

さらに、林道「加茂線」、林道「小野八谷線」、林道「花尾尾崎線」を整備することにより、林業・木材産業の活性化に加え、山村住民の生活道路として安全な通行が確保されることや、維持管理費の軽減と災害の防止が図られ、市町村の財政負担も軽減される。

各路線の認定年月日については、市道「戸出光明寺戸出吉住新線」、市道「上関町13号線」、市道「戸出石代川原線」の3路線が昭和58年4月1日に、市道「井口本江18号線」が平成17年6月28日に認定されている。

林道「惣領鞍骨矢田部線」、林道「加茂線」、林道「小野八谷線」、林道「桑院赤毛線」、林道「花尾尾崎線」の5路線については、平成15年12月に林道「能越2号線」については平成5年12月に「庄川地域森林計画」に掲載されている。また、林道「氷北線」は昭和59年2月に「小矢部川地域森林計画」(小矢部川

地域森林計画は平成3年9月に「庄川地域森林計画」に吸収されている。)に掲載されている。

(5-2) 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

〔施設の種類の種類(事業区域)、事業主体〕

- ・市道(高岡市)、高岡市
- ・林道(氷見市、高岡市)、富山県、氷見市、高岡市

〔事業期間〕

- ・市道(平成17~21年度)、林道(平成17~21年度)

〔整備量及び事業費〕

- ・市道2.2km、林道14.4km
- ・総事業費2,355,180千円
 - 市道 1,014,000千円(うち交付金507,000千円)
 - 林道 1,341,180千円(うち交付金649,110千円)

(5-3) その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「万葉の里地域づくり」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

・高岡万葉まつり(昭和56年~)

高岡万葉まつりは、豊かな万葉の詩情と地域に根ざす文化のまちを実現するため、市民総参加で行い、高岡のイメージアップを図ろうと昭和56年から催されている。「万葉集全20巻朗唱の会」をメインイベントに期間中市内一円で多彩な万葉イベントが繰り広げられ、全国から高岡市を訪れた人々に万葉の世界を堪能していただいている。メイン会場となる高岡古城公園では、万葉集全20巻、4,516首を三昼夜にわたりリレー方式で朗唱する「万葉集全20巻朗唱の会」をはじめ、万葉まつり大茶会、芸能発表などが開催されている。万葉歴史館では、全国万葉短歌大会が開催される他、大伴神社では大伴家持卿をしのんで「大伴家持卿頭彰祭」が開催されている。交流人口拡大の最大イベントである高岡万葉まつりと地域再生計画による路網の整備の連携が図られることにより、観光客やイベントに参加する地域住民が安全で快適に本地域を訪れることが可能となり、一層規模の拡大が図られる。

・「氷見・森とまち、海をつなぐ」交流事業

本事業は、平成12年度より林業関係者と漁業関係者が「豊かな海を取り戻す」ことを目的に、間伐等の森林整備を協力して実施しているほか、伐採した木材を用いて魚礁を組み立て氷見市沖に沈めるなどの活動も行っている。本地域再生計画による林道の整備と連携することによって、森林へのアプローチの手段が確保されることからさらなる住民の参加が期待でき、一層の森林整備の推進が図られる。

6 計画期間

平成 17 年度～ 21 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

4 に示す地域再生計画の目標については、富山県公共事業評価委員会において、計画終了後に必要な調査を行い評価・公表する。

また、目標達成状況について評価し改善すべき事項の検討を行う。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし。